

<参加者が抱える現状と交流内容報告>

多くの参加者が、関わりが困難であると感じている独居老人への支援に関して

- ・地域振興部会の祭りで、独居老人に対する資料や意見を聞きたい。  
→保健所の栄養士と作ったレシピは好評だった。食に関することから入るのは一番ではないか。
- ・デイサービスでの契約で、本人周囲にキーパーソンが存在せず、難しい事が多い。どこまで本人に聞いていいのか悩んでしまう。
- ・岩泉町の大雨の被害で、地域の独居老人が孤立したが、消防団が仮設の橋をかけてくれて支援に行くことができた。災害時の対策は、そこで生活するうえでの日頃の各方面への働きかけが重要だと感じた。
- ・高齢化した団地に関して、全国各地で高齢者へ対象に独自にアンケートをとり、それをもとにした対応が注目を浴びている。高齢者の助けあいの変化への問題が出てきているように感じている。
- ・高齢になってきた参加者数名より、高齢者になって初めて高齢者の気持ちがわかる、元気なのに社会が受け入れてくれないとずっと感じていた、素直に現実を受け入れるのに3年かかった、意欲が少しずつ少なくなっている、との意見も寄せられた。

→田中先生より 独居であることで、誰がどのように困るのかよく考える必要がある。マイナス面ばかり注目してはいけないのではなかろうか。

職場で学生指導をしている参加者と、施設として受け入れ側の立場の参加者が出席しており、学生の中で、実習を継続するには困難な素質・障害(?)をもっている者が増えていることについて

- ・受け入れ施設からはある程度のレベル以上の学生を、と希望があるが、学生指導側としては学生の可能性を見て欲しいという返答をしている現状。
- ・学生の可能性は考えるが、実習先の利用者を一番に考えなければならない。基準に満たさない学生は実習にはやはり出してはいけない。
- ・中には色々な面を見てくれたり、能力を引き出してくれたりする実習先もあるのでは。
- ・人間は期待されると伸びる。受け入れる施設次第であると思う。実習先や職場の業種によっては、その能力を生かせるかもしれない。責任をもって送り出すためにも、欠点や弱点を隠してはいけない。
- ・障害のボーダーラインにあるような人も増えているようだ。家族もそれを理解していない。体験学習から様子を見て、施設では違った面を見てくれ、解決する場合もある。

→田中先生より 発達障害がなぜこんなに増えたのか。社会的要因が大きいのではないのか。トラブルへの対応は大きな課題であるが、今後とも丁寧な対応は必要だろう。